

# 1 地域資源を生かした地域営農の推進 畑かん営農

## 1 対象

沖永良部島畑地かんがい受益地区（外俣，朝知野，田皆，正名地区），水利用推進リーダー

## 2 課題を取り上げた理由

- (1) 国営畑かん事業等による畑かん施設の整備が進められ，水利用効果が高く高収益な品目等の面積拡大と生産性向上が求められている。このような中，畑かん営農の理解促進を図るために，水利用推進リーダーの育成及び畑かん営農実践地区での活動支援を行い，活動を体系化した後，他地区への波及を図る。
- (2) 水利用効果の高い作物における水利用技術の確立・普及を行い，生産性の向上と推進品目の拡大を図る。

## 3 活動内容

- (1) 水利用推進活動の進め方の検討と合意形成の推進

ア モデル地区別の合意形成手法の検討と実践・育成モデルの検証

沖永良部島畑地かんがい営農推進協議会及び町等の関係機関・団体と，人・農地プランとの整合性や畑かん推進の手法について検討・合意形成を図り，地域主体の畑かんを活用した地域営農推進方法を検討した。

イ 次期モデル地区の実態調査

畑かん施設整備完了地区の営農変化を捉えるため，根折，芦清良地区で水利用に積極的な農家のさとうきびやばれいしょの水利用実態調査を実施した。

- (2) 畑かん営農組織を活用した畑かん営農及び啓発活動の推進

ア 水利用組織の自主的活動支援と次期モデル組織の育成検討

「畑かん営農組織」のモデルとなる畑かん営農振興会の活動の一環として水利用研修会の開催を支援するとともに，畑かん営農の推進や水利用への気運を醸成するため，新たな水利用推進リーダーの確保と展示ほの設置・運営活動の支援を行った。

イ 水利用推進リーダーの育成・活動支援

畑かんマイスターとの重複を解消するため，関係機関と外俣，田皆，正名で候補者の選定と承諾への働きかけを行った。水利用推進リーダーの水利用向上を図るため，気象，土壤水分データを示し，かん水支援を行った。

ウ 高度水利用技術利用によるモデル農家の生産性向上支援

モデル農家のばれいしょ作付ほ場において，ロールカーの設置及び撤収に必要な時間を調査した。

- (3) 推進品目の拡大

ア 地域の実情に応じた品目の拡大及び産地化支援

生産安定を図るため，にんにく，かぼちゃでは生分解性マルチの導入，かぼちゃのソルゴーによる防風垣設置，交配期の天候に応じた管理（人工交配）等生産安定の技術支援を行った。また，にんにくでは，単収低迷要因になっていた種球の乾燥・貯蔵方法の改善と植付後のかん水の徹底を図ることにより，単収向上を支援した。



水利用研修会による啓発



水利用推進リーダー展示ほかん水状況



ロールカー撤収状況

## 4 活動の成果

- (1) 水利用推進活動の進め方の検討と合意形成の推進  
 ア モデル地区別の合意形成手法の検討と実践・育成モデルの検証

正名，朝知野地区の活動事例を水利用の手引きの事例として追加することができた。

- イ 次期モデル地区の実態調査

根折地区のさとうきびほ場での調査によると，降雨が少なかった8月のさとうきびほ場における平均水利用量は36t/10aであり，一層の水利用推進を図らなければならない実情が分かった。

- (2) 畑かん営農組織を活用した畑かん営農及び啓発活動の推進

- ア 水利用組織の自主的活動支援と次期モデル組織の育成検討

研修会参加者から，次年度も畑かん営農の推進や栽培技術向上等に資する研修会の開催等について支援してほしいとの要望が出された。

- イ 水利用推進リーダーの育成・活動支援

新たな水利用推進リーダーを3人選定できた。

降水量に応じたかん水を実践した田皆地区水利用推進リーダーは，さとうきび単収7t/10aを確保できた（R3/4年地区平均約6t/10a）。

- ウ 高度水利用技術利用によるモデル農家の生産性向上支援

モデル農家ほ場では，2畝またぎでロールカーを設置でき，設置及び撤収に必要な時間は6分であった。その結果及び使用上の留意点について，モデル農家の理解が得られた。

- (3) 推進品目の拡大

- ア 地域の実情に応じた品目の拡大及び産地化支援  
 にんにくは，かん水効果の周知や，種球安定確保，省力化推進により，栽培面積の拡大（前年比110%）が図られた。かぼちゃは技術支援，K-GAPの継続認証支援等により260a（内畑かん地区で110a）で栽培された。

畑かん利用のため、沖永良部島の雨量情報を提供しています！



畑かん地区（余多）のかぼちゃ

## 5 今後の課題

- (1) 水利用推進活動の進め方の検討と合意形成の推進  
 少雨による生育障害の発生や過去の経験によるかん水の必要性の判断，散水器具を設置する労力がなく水利用ができていないこと等の課題を解決するための解決策の具体化
- (2) 畑かん営農組織を活用した畑かん営農及び啓発活動の推進  
 大規模経営での水利用による作業効率の改善を図る体制づくりと，かん水に新たな効果をプラスした技術の組立
- (3) 推進品目の拡大  
 関係機関と連携し，販路拡大等の安定販売方法を確立

## 6 担当した普及職員（〇印はチーフ）

○原田一幸，大森洋一，大久保剛，西裕之，渡辺剛史，吉田幸哉，四藏文夫